

つなぐー育むー流れをつくる

一人一人が地域を舞台に
よりよく暮らしていくために



のびのびと



この町で、暮らしてきた。
これからも、いっしょに。

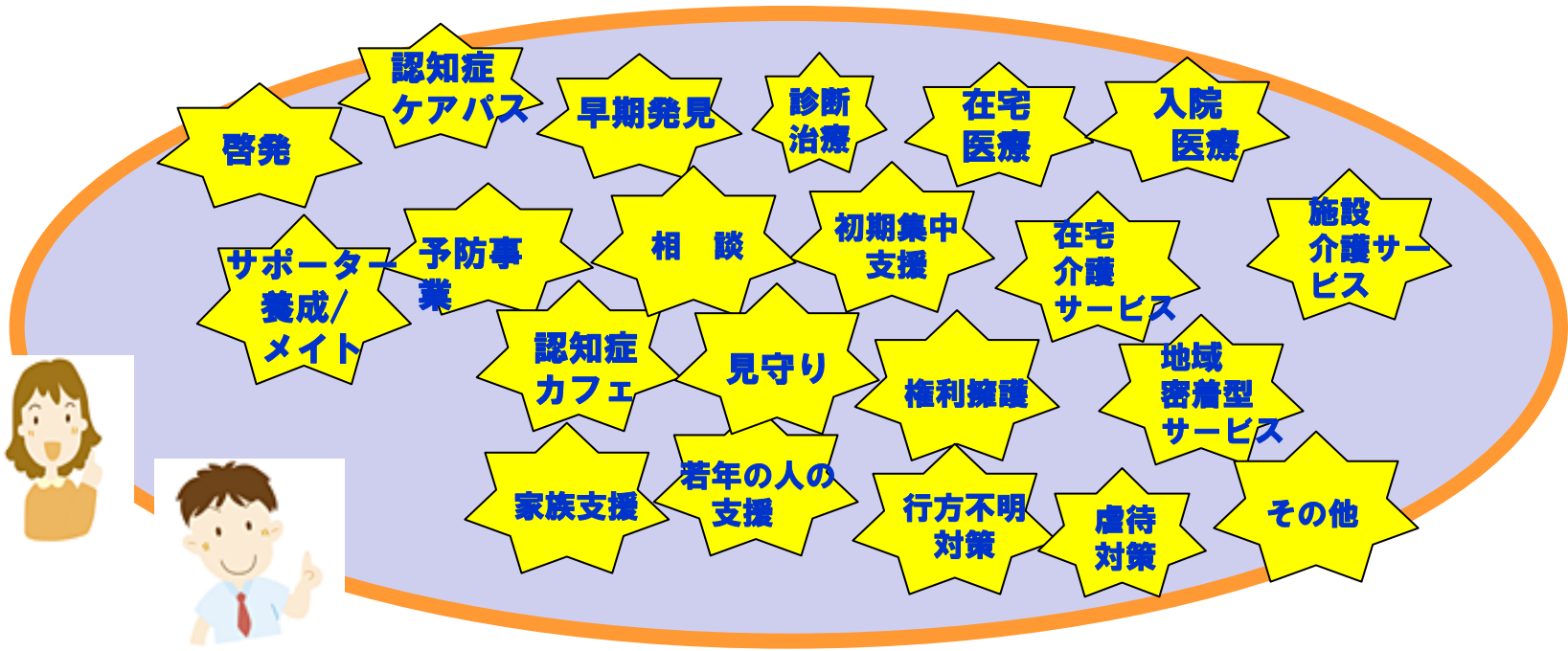
日々の現状は、
年々、急ピッチで事業・サービスが増えてきているが・・・



事業・サービスを「増やす・こなす」やり方のままでは、
せつかく取組んでも、行き詰まる。
ますます、先行き不安・混乱・疲弊・あきらめが強まりがち・・・

。当事者も、住民、支援関係者も、そして行政関係者も
楽にならない。

そこで登場したのが、認知症地域支援推進員！



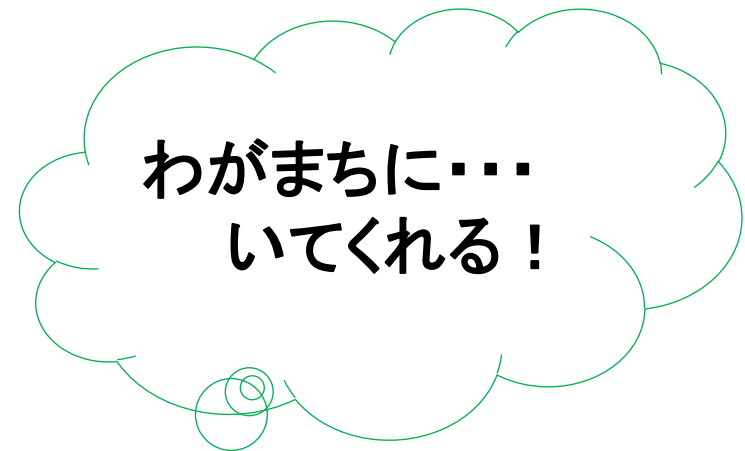
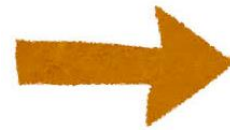
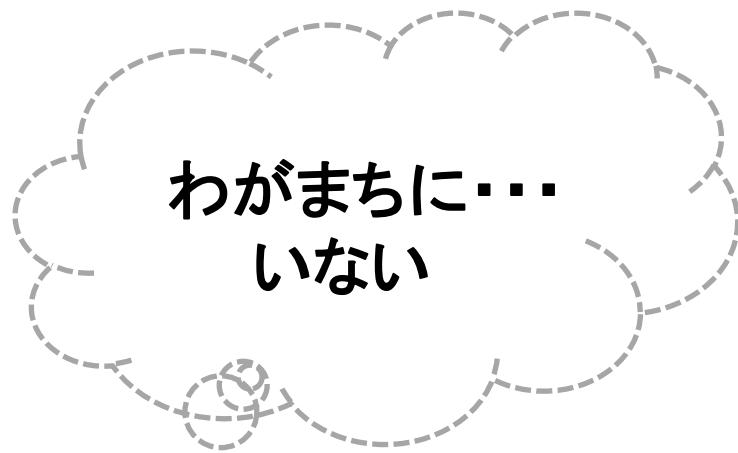
- ①バラバラのままではなく、地域にあるものを、つなぐ：ネットワーク構築
- ②みんなの認知症の人への理解と対応力を高める：対応力向上の支援
- ③（早めの）相談を大切にして、本人・家族が必要なことにつながる流れをつくる：相談支援・支援体制づくり

12.9% → 66.5%

H26年度 225市町村

H28年度 1158市町村 (見込み)

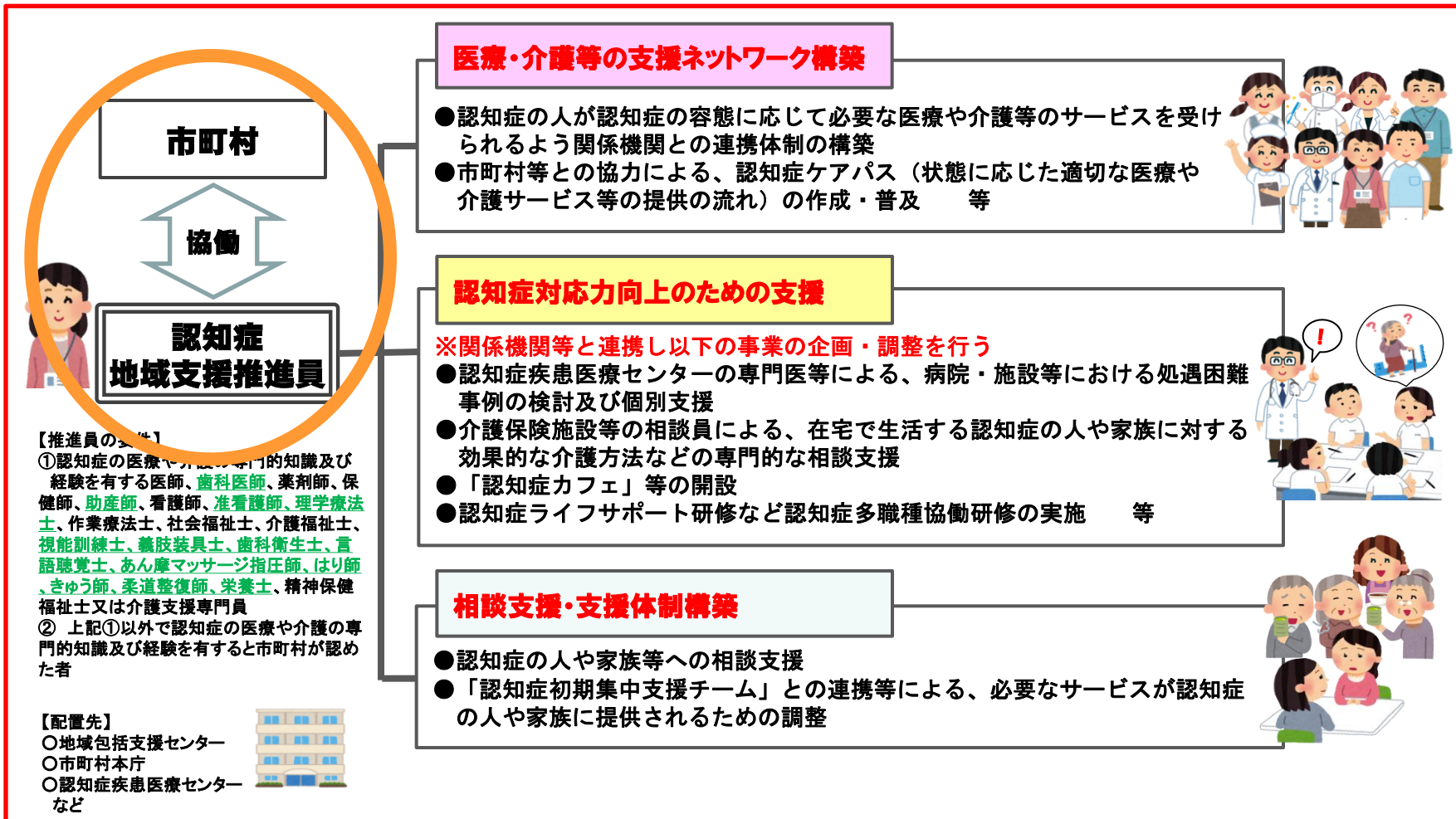
認知症地域支援推進員がいてよかったあ！



いっしょに、存在価値を高めていこう

認知症地域支援推進員

出典：厚生労働省資料



推進員の要件：平成29年度から追加（下線・緑字）

★地域の実情、課題に応じて

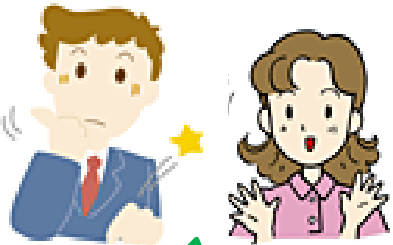
2017年6月



- ・やることが山積み・・・
- ・仕事は、推進員の仕事以外にもたくさん！
- ・待ったなしの案件が次々に・・・



急がば回れ！ 焦らずに
自分の地域で
推進員ならではの
やるべきこと、できることを
いっしょに話し合おう。



立場を超えて
いっしょに



めざしていること(期待される成果)

目指していること(期待される成果)



認知症
施策担当者

推進員の主な役割

市
区
町
村
(行政)

支援ネットワーク
構築

認知症対応力向上
のための支援

相談支援・
支援体制構築

- * 連携の要(かなめ)役
- * 認知症施策の推進役

有機的な地域ネットワーク

個別支援ネットワーク

本人
意思が尊重され
、
認知症とともに
よりよく暮らして
いける

有機的な
(当事者に役立つ)
つながりが拡充

対応力のある
人材・チームが
どの地域にも
存在

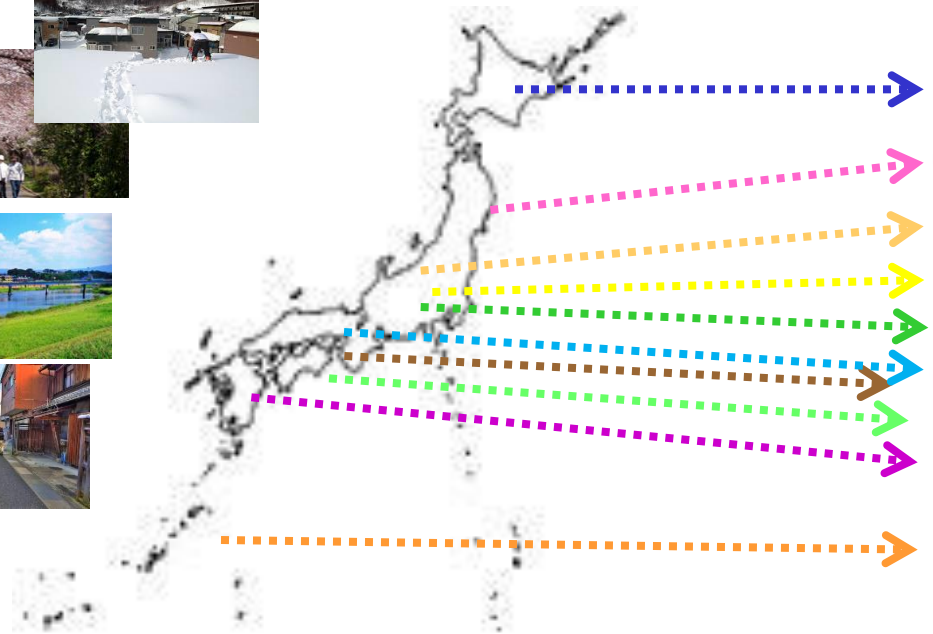
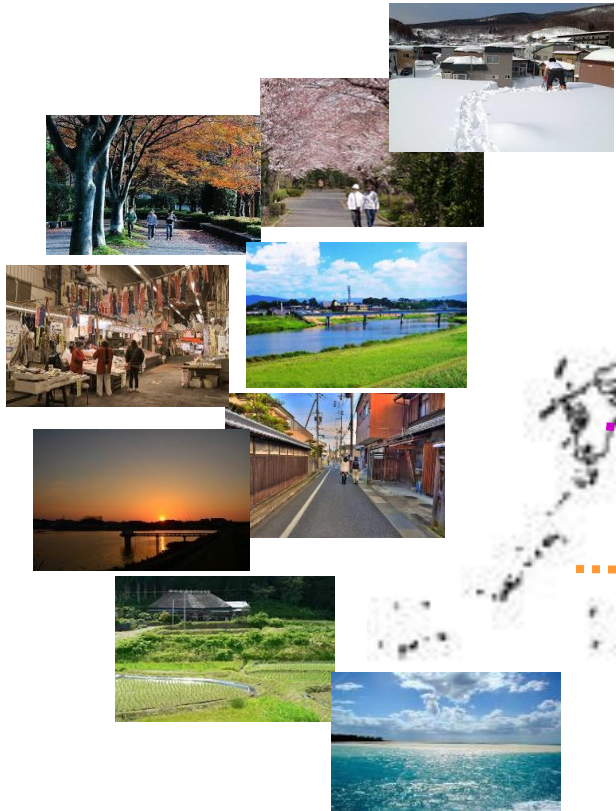
早期からの
当事者視点での
切れ目ない
支援体制

やさしい地域の
実現

市区町村の各地域全体

今、全国各地で

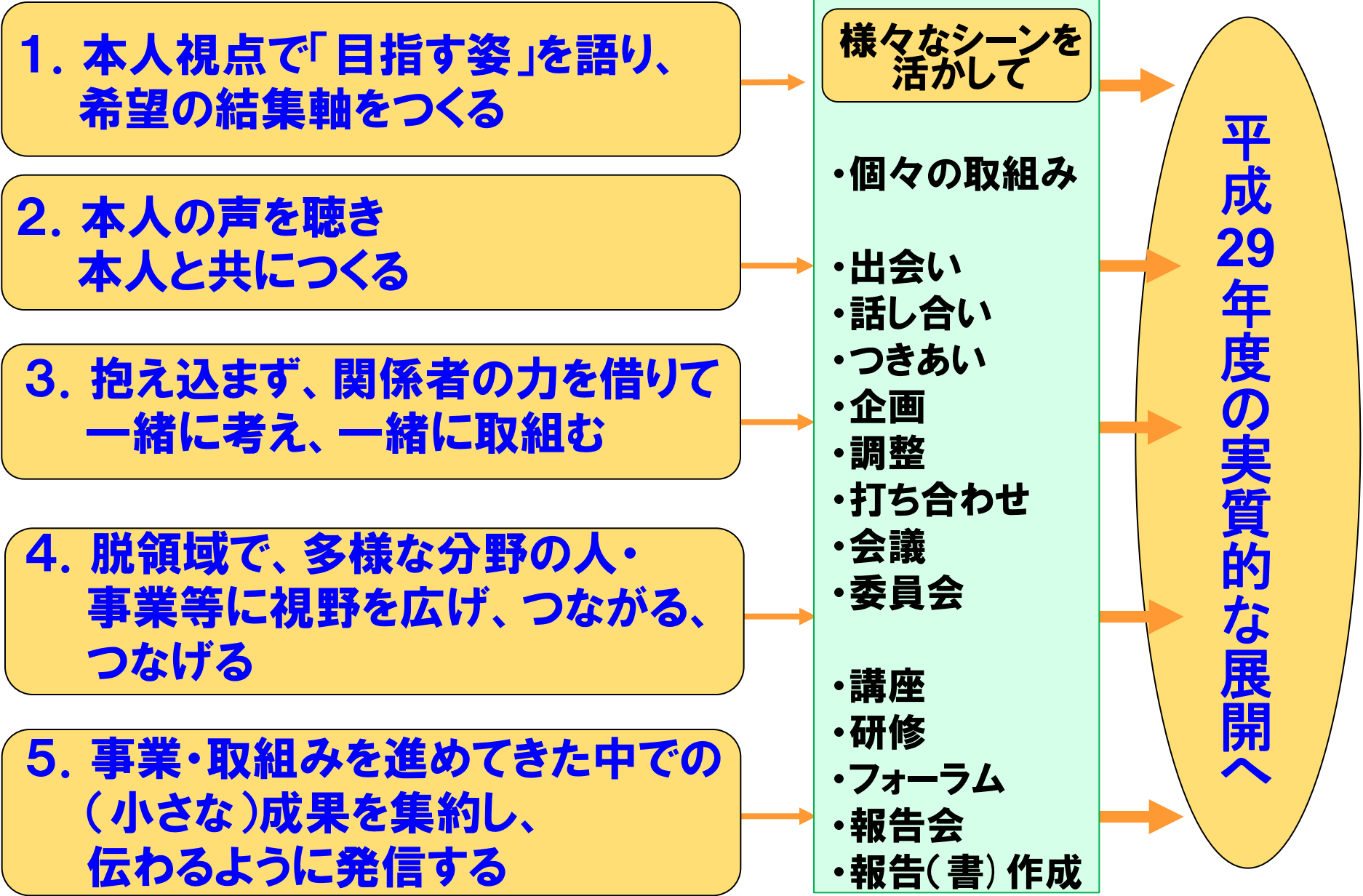
試行錯誤



分かち合おう → 一緒に伸びていこう

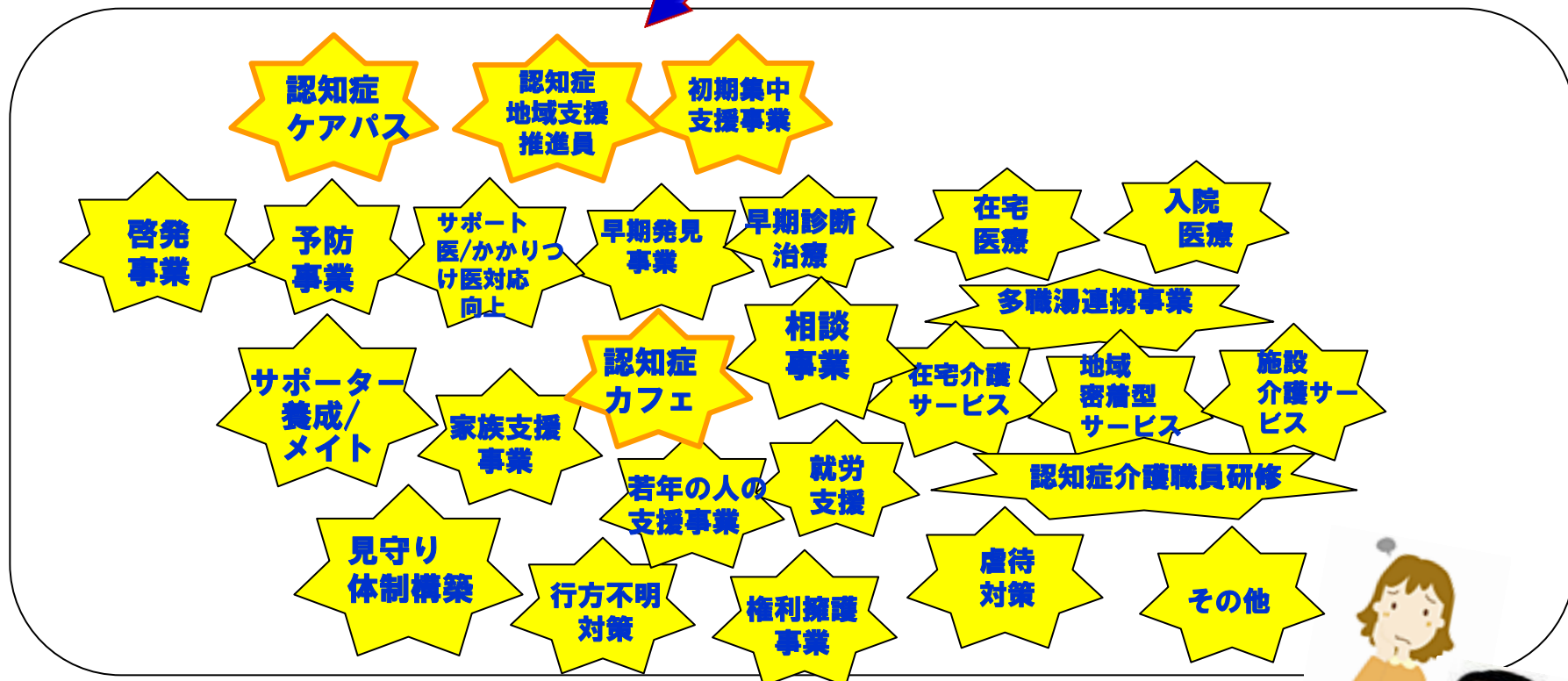
今、やるべきこと・できることは何か(参考)

～(小さな)できることを見つけて、アクションを～



1. 本人視点で「目指す姿」を語り、希望の結集軸をつくる

現状：年々、認知症に限った田だけでも
事業や地域の支援資源が増えてきているが・・・



・バラバラ、混乱、

*何をめざしていいかわからない、やらされ感、その場しのぎ
忙しく頑張っているのに、成果があがらない

⇒地域のみんなが疲弊、先行き不安、あきらめ、楽になれない



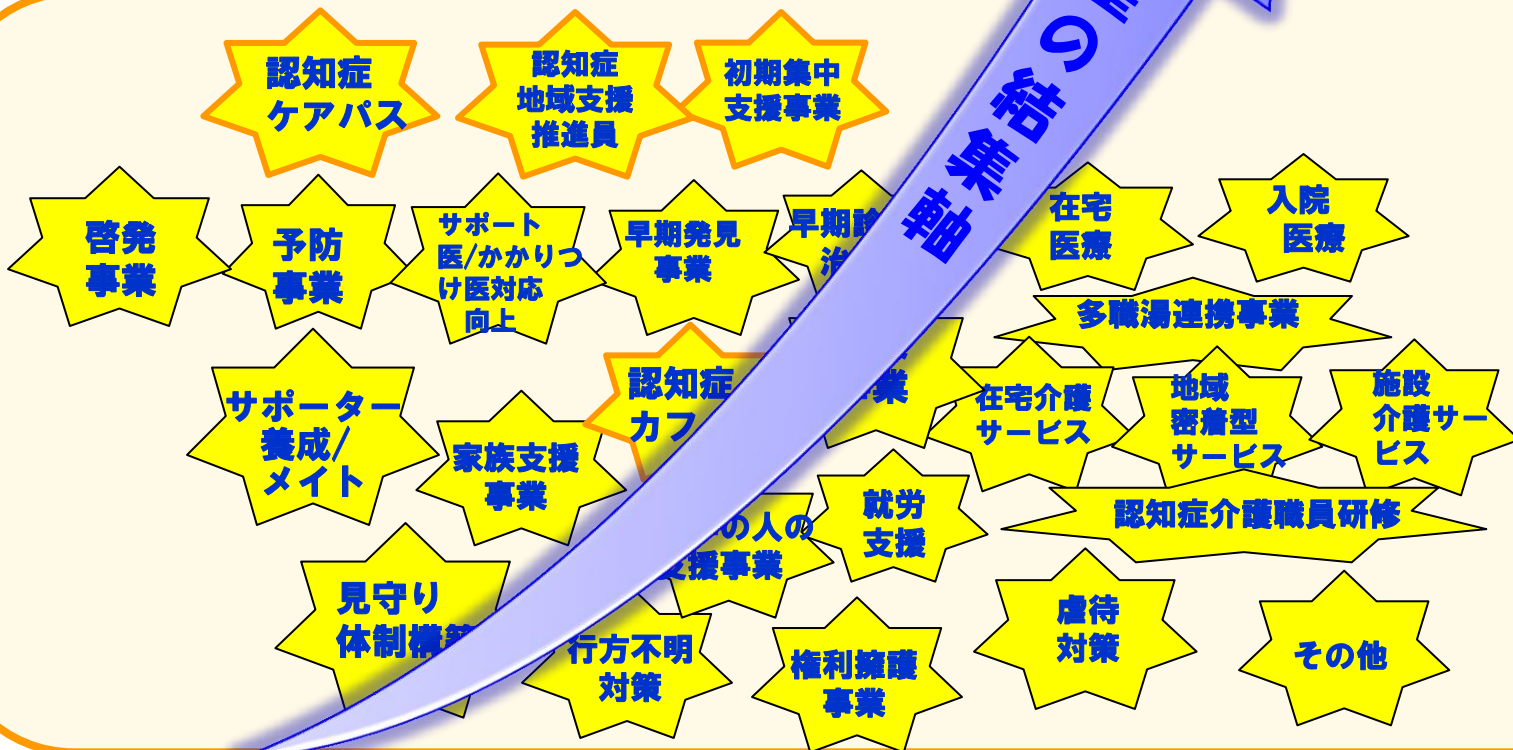
★わが自治体/地域が、目指す姿は...

目指す姿！

行政担当者、関係者が、
自分ごととして、真剣に語ろう！
→迷わずに、同じ方向を向いて、
動き出せるように。
→住民、支援関係者が奮起する。
⇒連携・協働の鍵

本人
地域

希望の業務軸



★ 目指す姿は…

何をめざしていくか：ヒントは・・・

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～ の概要 厚生労働省 平成27年1月

- ・ 高齢者の約4人に1人が認知症の人又はその予備群。高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加
2012(平成24)年 462万人(約7人に1人) ⇒ **新** 2025(平成37)年 約700万人(約5人に1人)
- ・ 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。

新オレンジプランの基本的考え方

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

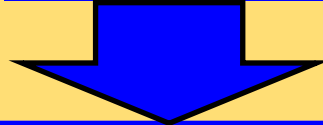
- ・ 厚生労働省が**関係府省庁**(内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省)と共同して策定
- ・ 新プランの対象期間は団塊の世代が75歳以上となる**2025(平成37)**年だが、数値目標は 介護保険に合わせて2017(平成29)年度末等
- ・ 策定に当たり認知症の人やその家族など様々な関係者から幅広く意見を聴取

七つの柱

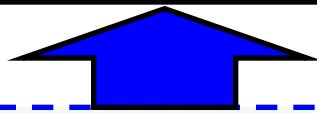
- ① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③ 若年性認知症施策の強化
- ④ 認知症の人の介護者への支援
- ⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視

何をめざしていくか：キーワードは

- めざす地域の姿は・・・
認知症の人にやさしい地域



- めざす認知症の人の姿は・・・
認知症とともによりよく生きていくことができる
 - ・単に支えられる側と考えない
 - ・自分らしく暮らし続けることができる（道筋：パスを辿れる）



- 方針：めざす姿を効率的に達成するために
 - ・本人の意思を尊重（声を聴く）し、当事者の視点に立つ：当事者主体
 - ・住み慣れた地域を（とことん）大切にす：住民主体
 - ・地域の多様な分野の関係者と共働
 - ・当事者や様々な関係者から幅広く意見を聴取する

めざす姿を実現するための方策：7つの柱

めざす姿

自分らしく

住民(本人) 発症

認知症とともによりよく生きていく

最期

容態の変化に応じてすべての時期で、よい環境で暮らせる地域

やさしい地域

七
つ
の
柱

- ① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③ 若年性認知症施策の強化
- ④ 認知症の人の介護者への支援
- ⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視

* ①～⑥すべての方策が「めざす姿」を達成するために
効率的に機能するための根本的な方策

「めざす姿」達成に向けた
方策(手段)

参考 わがまちが、こんなまちになるように、いっしょにやろう!

行政担当者(事務職、技術職)が、目指す姿を、あらゆる機会で、様々な人に語っている地域



サポーター養成講座で



サロンやカフェで



委員会や様々な検討会、話し合いの機会に



子どもたちに向けて



企業に向けて



医療・介護・支援の
関係者に向けて



研修会や報告会で

わがまち

行政関係者の方向づけ(言葉の力)は、想像以上に大きい。

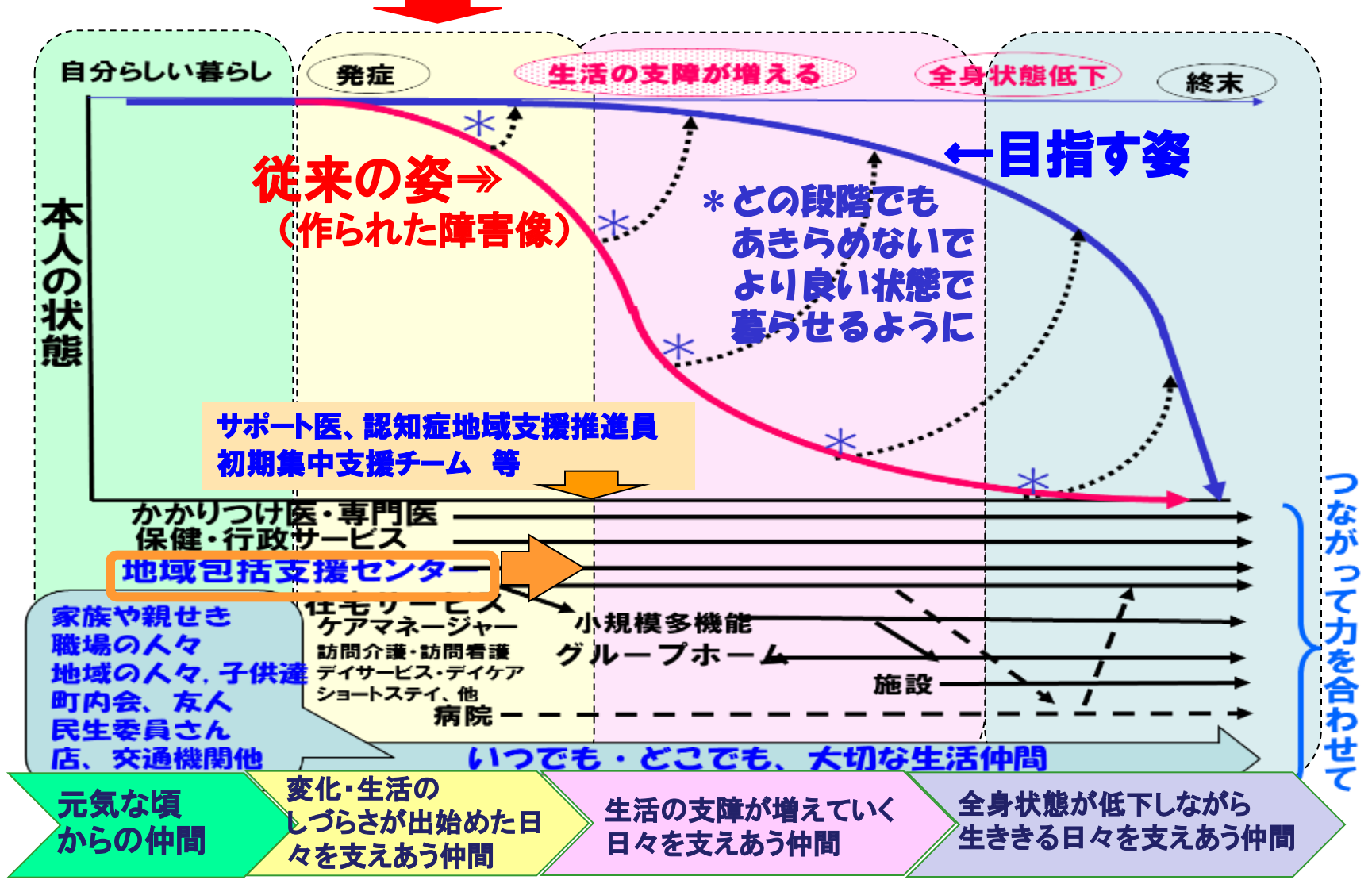
*地域の多様な人たちのやる気と力、結集軸をうみ出す

従来:地域の理解・支援・つながりの不足で悪化している人が多い

◇本人(住民)の「目指す姿」:発症後も自分を保ち、よりよい状態・生活・経過を(希望)

◇地域の「目指す姿」:すべての職種・立場の人がいっしょに、やさしい地域に。

***特に、初期が重要:初期がその後の経過を大きく左右⇒「初期集中支援」の大切さ**



「目指す姿」の討議を地域で深めながら、取組みを進展させている例

ビジョンの再検討作業

(加賀市)



関係部課長とワーキングメンバーとの話し合い

じぶんたちの宣言書づくり



加賀市の目指す姿

目指す姿に向けて

市民、専門職それぞれが、
できることをみつけて、
ふだんの中でさりがない実践を継続。
全体として一つの方向へ。

地域の人の
つながりで
戸外に出て、
一緒に。

地域の介護
サービス事
業所が、
身近な相談
窓口。



「目指す姿」の討議を地域で深めながら、取組みを進展させている例

本人・家族・住民・専門職が、希望を持てる認知症ケアパスを作成 (町田市)



行政職員が、市内の地域包括支援センター(委託)に配置した認知症地域支援推進員と共に話し合い、認知症ケアパスの作成作業に取り組む。

*** 認知症になっても楽しく生活できることを市民に伝えることが目的です。(長い経過を、容態別4期に分けて)**

[まちだ・ほほえみ街道]

認知症の疑いの時期

「まだいえる！私の人生」

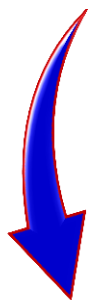
* ケアパスに「目指す姿」をわかりやすく盛り込む。



<https://www.city.machida.tokyo.jp/iryo/old/shiminnokatae/ninchishojoho/shitte.html>

2. 本人の声を聴き、本人と共につくる

現状：地元で暮らす本人の声をきかないまま、
施策・事業や取組みを企画し、こなすことになりがち。

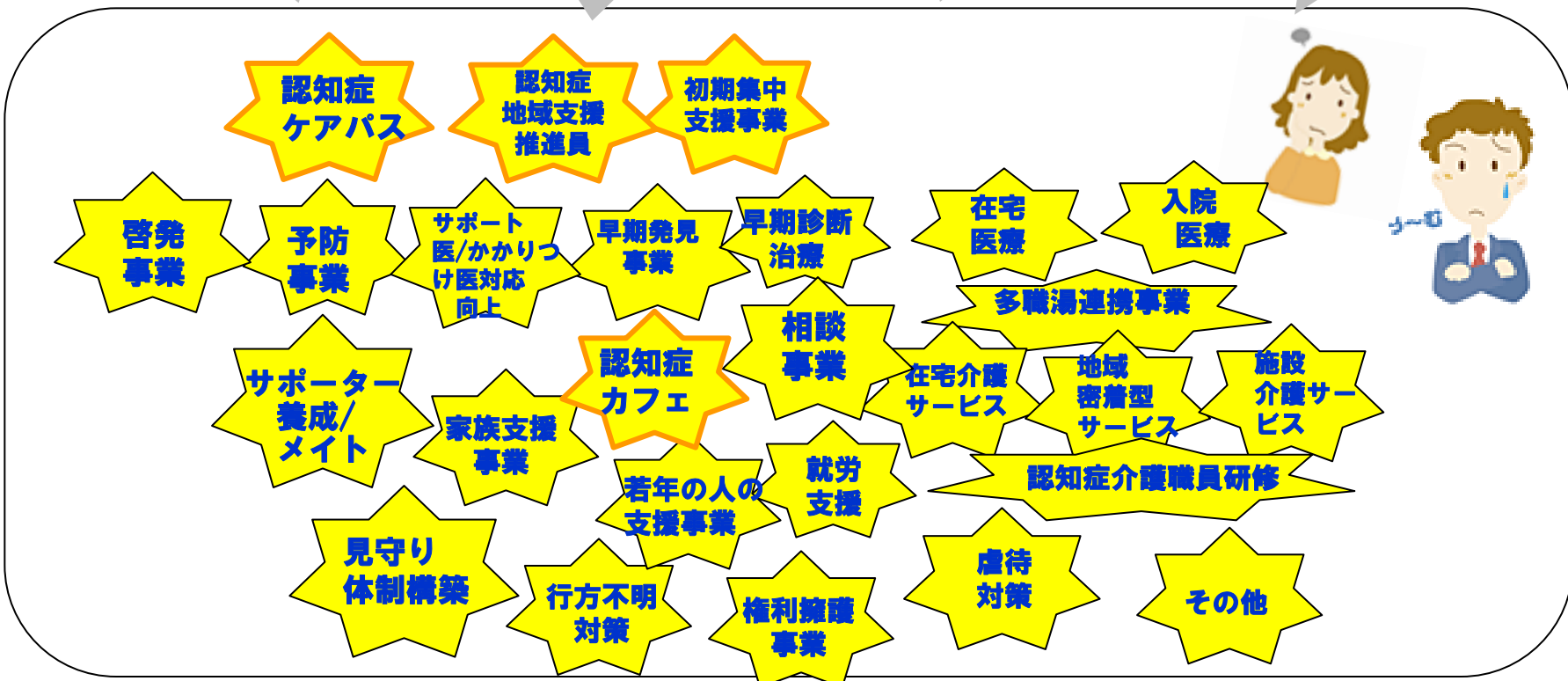


何から手をつけていいかわからない

やってははみたが
やっておしまい
作っておしまい

ターゲットの
人が集まらない
つながらない

苦勞している割に
成果ができない、
やりがいが無い。



＊「ひとり」を大切に：推進員がやって示すことで、周囲が変わっていく

「ひとり」からでも、「本人の声を聴く」機会をつくると

- ・何が起き、どんな理解・支援・つながりが必要か、すべきこと・できることが浮かび上がってくる。
- ・本当に役立ち、無理・無駄のない事業・取組みになる。

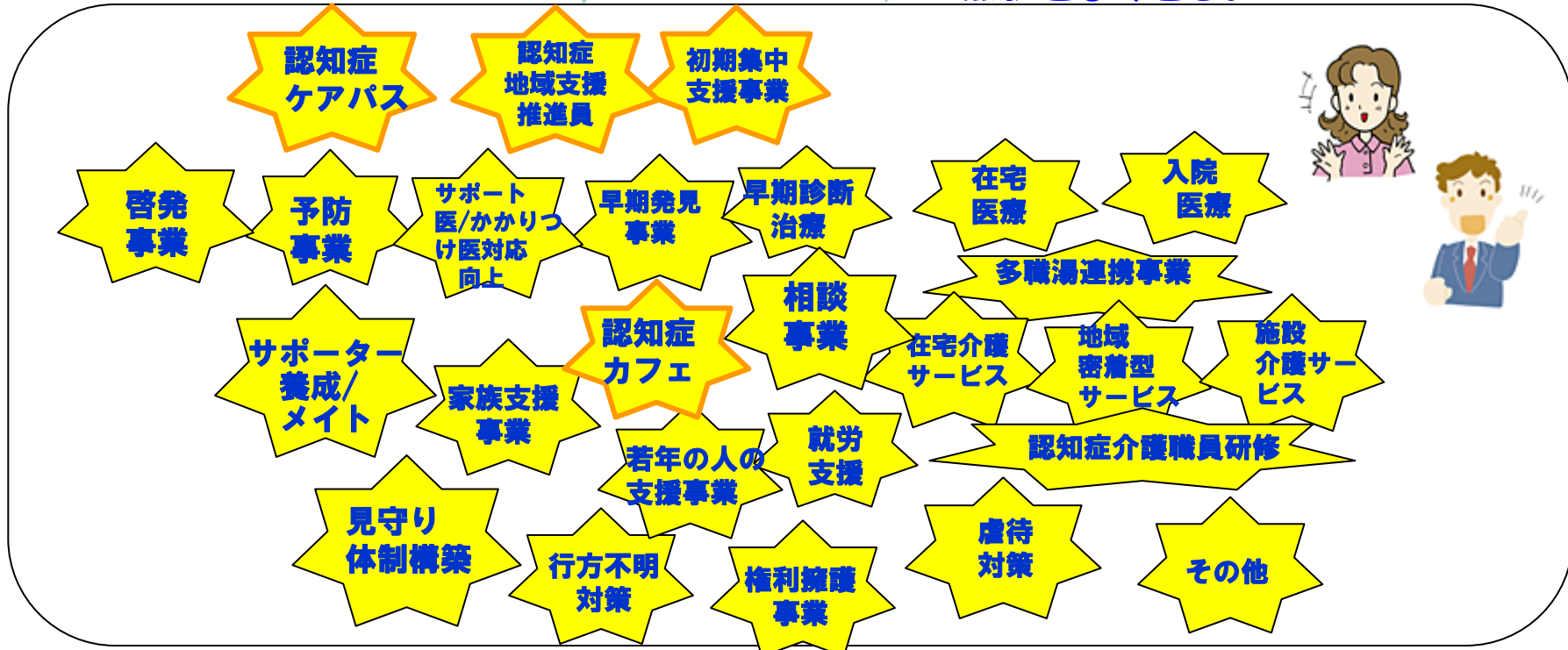
今、これが
必要なんだ！

具体的に
やるべきこと・
できることが
見つかる！

限られた人手、
時間・コストで
優先すべきこと
が明確になる

そのうち・・・
と先延ばしできない
自分ごととして
一歩(半歩)でも

▲無駄をなくせる。 ★志気があがる！



本人のことばより

- だめ、しないでもいい、あぶない・・・、
そればかりいわれる。
情けない。いやんなる。
自分でしたい・・・。
- やることなすこと、うまくいかないでつらい。
でも、誰かがいてくれれば、まだまだできる。
- 世話になる一方は、つらい・・・。
おとうちゃん(夫)や子どもたちのためになりたい。
- 外にでたい！ 気晴らししたい！ 働きたい！

地元の本人の声に耳を澄まそう⇒推進員が目指す方向が明確になる

実例:物忘れ相談に来た人たちの声を、じっくり聞いてみた。

不安、さびしさ、活躍できない無念さ・・・に身につまされた。

思いを知り、本人の力を活かすふだんの関わりを増やすことで、
もっと一人ひとりが元気に暮らしていけることを実感。

推進員の役割は、相談者を増やしたり、医療機関につなげるだけでなく
本人の思いを地域に伝え、自分ごととして考え、「その人の今を支える仲間を
一人でも増やすこと」だと思った。相談と地域ケア会議をつなげたい。

一人ひとりの声：生きづらさ、ささやかな願い、力を伝えている

声に耳を澄ませながら、自分らしく、生き生きした姿と一緒に



サロンでお茶出し役



忙しいお隣の草取り



子供を守ろう
防犯パトロール中



保育園の助っ人役



若者の癒し役



花屋さんの常連
最期まで自分らしく

いくつになっても、認知症になっても
一人ひとり（自分は）、すごい底力を秘めている。



釣りが好き



野球が好き

全国認知症ソフトボール大会
(富士宮市)

★無理、と決めつけず、やってみよう！
★やってみると、力とつながりが伸びる。
日々暮らしていく元気につながる。

本人の声を聴き、事業や取組みを本人と共に進めている例

本人が語る機会を作り、市民や専門職が声に耳を澄ますきっかけを作る。(富士宮市)



サポーター養成講座やプロの研修で本人に体験や思いを語ってもらう。

* もう隠したり、引きこもる時代ではない。

* 認知症になってから、地域の少しの支えがあれば、
あきらめることより、できることや楽しみがふえていく！



認知症はあっても語れる人、もともと語るのが好き・得意な人が、地元には沢山いる！

本人が、キャラバンメイトになる！

- ・この姿に多くの人が勇気づけられる。
- ・新たな役割になり、本人・家族が前向きに歩みだす

人が集まる機会・イベント等が多い年度末こそ、無理と決めつけずに、本人の声を聴く機会をつくろう！

生の声が無理なら、すでにある映像を活かそう(最終頁 参照)

**(年度末の) 検討会や会議に、本人に参加してもらい、
素朴な気づきや意見を聴こう、今後に活かそう。**



**話し合いや作業に、本人が参画：何が必要か、目からうろこ
(富士宮市)**



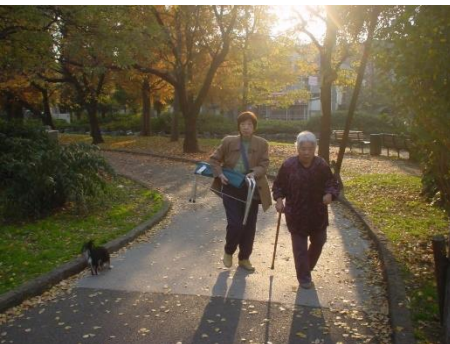
認知症ケアパス作成の場に、本人に参加してもらい意見を聴いてみた。

- 本人、家族が、みやすく、利用できるものに
- 手にしたい、見たい、と思えるものに
- 見て元気が出る、楽しいものに

(仙台市)

機会があれば伝えたい、声がかかるのを待っている人がいる。

認知症の事業・取組を特殊なことにならないで、
本人の素朴な声（願い）を聴いて、かなえていこう。



ちょっと一緒に
散歩へ



ちょっと一緒に
きれいになり



ちょっと一緒に
好きな買い物へ



ちょっと一緒に
地域の子供と



ちょっといっしょに
なじみの図書館に



ちょっと一緒に
働き活躍



ちょっと一緒に
なじみの人と風呂屋に



ちょっと一緒に、
あそこに行きたい

地域の中に出かけ、安心・安全な町に・・・優先課題

重要

ふだんから、地元で
本人同士が集まり、本音で語り合える機会をつくろう
*本人ミーティング

★家族や支援者には、語れない思いやニーズがある。

★認知症の体験をしている仲間に会えると・・・

- ・本音で語れる。

 - ⇒重荷を(少し)おろせる。解放される。

- ・想像以上に、語れる。思っていることを伝えられる。

 - ⇒真のニーズがみえてくる。

- ・本人同士で、励まし合い、支え合い、

 - 落ち込みから脱出して、前向きになっていく。

☆各地で、推進員が本人ミーティングの開催に着手し、
本人の力の発揮、地域のつながり・支援力の強化を
生み出しています。

参考：今、注力すべきことは何か

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)のさらなる推進のために

「認知症総合戦略推進事業」(厚生労働省老健局 全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料 平成29年3月10日)

「認知症施策等総合支援事業の実施について」(平成26年7月9日老発0709第3号厚生労働省老健局長通知)改正の概要(案)

改正後

○ 認知症総合戦略推進事業

- (1) 認知症総合戦略加速化推進事業
先駆的な取組の共有や広域での連携体制の構築に資する事業を実施。
 - ・ 広域の見守りネットワークの構築【新規】
 - ・ 認知症の本人が集う取組の普及【新規】
 - ・ 初期集中支援チームや地域支援推進員の設置加速化
 - ・ 認知症医療と介護の連携の枠組み構築 等
- (2) 認知症施策普及・相談・支援事業
認知症介護の専門家や経験者等が対応するコールセンターの設置など地域の実情に応じた効果的な支援を行う。
- (3) 成年後見制度利用促進のための相談機関やネットワークの構築などの体制整備【新規】
- (4) 若年性認知症施策総合推進事業
若年性認知症の人に対する総合相談窓口としてのコールセンターの設置や、適切な支援を行うための地域ネットワークの構築、若年性認知症支援コーディネーターの配置等による総合的な支援を実施。

メニュー
|
統合
(
一部
新規

現行

○ 認知症施策普及・相談・支援事業

認知症介護の専門家や経験者等が対応するコールセンターの設置など地域の実情に応じた効果的な支援を行う。

○ 都道府県認知症施策推進事業

都道府県において、認知症施策の実施の促進等の支援を実施。

○ 認知症医療・介護連携の枠組み構築のためのモデル事業

二次医療圏単位で、認知症医療と介護の連携の在り方を議論することを通じた連携の枠組みを構築することを目的として実施。

○ 若年性認知症施策総合推進事業

若年性認知症の人に対する総合相談窓口としてのコールセンターの設置や、適切な支援を行うための地域ネットワークの構築、若年性認知症支援コーディネーターの配置等による総合的な支援を実施。

○ 認知症疾患医療センター運営事業

地域において、認知症の人に対して必要な医療を提供できる機能体制の構築を図るための事業を行う「認知症疾患医療センター」等の運営事業。

要件緩和

既存の補助メニューを統合し、地域の実情に応じた柔軟な事業実施を可能とする

認知症総合戦略推進事業 【一部新規】

概要

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に基づき、適時適切な医療介護等の提供、若年性認知症の人への支援、地域での見守り体制の確立、認知症高齢者等の権利擁護等、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを推進するための取組を実施する必要がある。

このため、広域的な見守り体制や高齢者等の相談機関における法律面での支援体制の整備、初期集中支援チームや地域支援推進員の設置についての支援や医療介護連携体制の確立等、地域の実情に応じた取組について各都道府県で共有するための事業を実施するとともに、都道府県において若年性認知症の人への支援等を実施する。

事業内容

- 1 先駆的な取組の共有や、広域での連携体制の構築
（主な事業内容）
 - ・ 広域の見守りネットワークの構築【新規】
 - ・ 認知症の本人が集う取組の普及【新規】
 - ・ 初期集中支援チームや地域支援推進員の設置加速化
 - ・ 認知症医療と介護の連携の枠組み構築 等
- 2 成年後見制度利用促進のための相談機関やネットワークの構築などの体制整備【新規】
- 3 若年性認知症の人への支援や相談窓口の設置

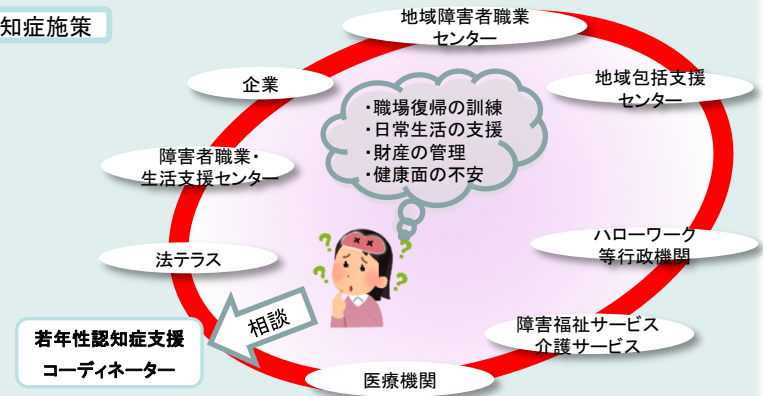
先駆的な取組の共有



成年後見制度利用促進のための体制整備



若年性認知症施策



認知症の本人が集う取組みの普及 【新規】

参考: 本人ミーティング

【本人ミーティングとは】

- ◆ 認知症の本人が集い、本人同士が主になって、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからのよりよい暮らし、よりよい地域のあり方を一緒に話し合っていく場です。
- ◆ 『集まって楽しい!』に加えて、本人だからこそその気づきや意見を本人同士で語り合い、それらを地域に伝えていきます。
- ◆ 行政や関係者が同席し、本人たちの生の声から、本人への理解を深め、地域の実情やニーズをとらえながら、やさしい地域づくりを具体的に進めていきます。

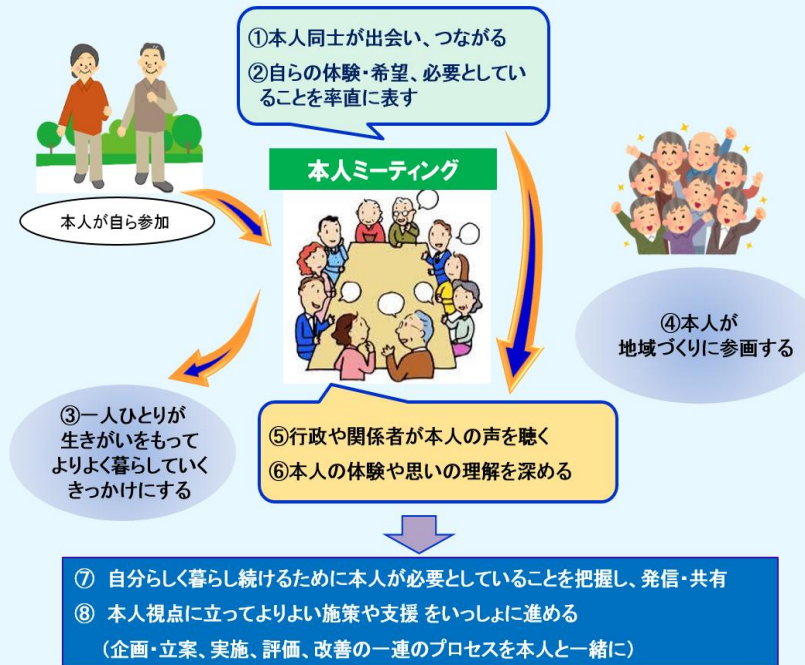
【本人ミーティングの開催について】

- 地域の関係者が必要とねらいを共有しながら、地域の特性に応じて企画し、自由に開催できます。まずは少人数から、今ある場や機会を活かして開催します。
- 各地で、多様な職種の人たちや認知症地域支援推進員が取り組み始めています。
- 企画段階から本人が加わると、本人が集まりやすく、語りやすい本人ミーティングになります。

詳細は、「本人ミーティング開催ガイドブック」
<http://www.ilcJapan.org/study/>

★本人ミーティングのねらい

○ 本人ミーティングは、認知症の人の視点を重視したやさしい地域づくりを具体的に進めていくための方法です。



【関連情報】

◆ 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)【抜粋】

- ・ 認知症の人が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるために必要と感じていることについて実態調査を行う。
- ・ 認知症の人のつながりを築いて、カフェを超えた地域の中での更なる活動へと繋げていけるような、認知症の人の生きがいづくりを支援する取組を推進する。
- ・ 認知症の人やその家族の視点は、本戦略だけでなく、地方自治体レベルで認知症施策を企画・立案し、また、これを評価するに当たっても尊重されることが望ましい。認知症の人やその家族の視点を認知症施策の企画・立案や評価に反映させるための好事例の収集や方法論の研究を進め、これを発信することで全国的な取組を推進していく

◆ ニッポン一億総活躍プラン【抜粋】

- ・ 認知症の人が集まる場や認知症カフェなど、認知症の人やその家族が集う取組を2020年度までに全市町村に普及させ、こうした活動の情報を市町村や地域包括支援センターから住民に発信する。

本人ミーティングの様々な取組例

多様な場を活かして、多様な人たちが開催しています。

本人ミーティングでの本人の声

- 同じような体験をしている人と話せてうれしかった。自分もいろいろ言えて、元気が出た。
- 自分たちが言わないと、わかってもらえない。自分たちが話すことが、まちをよくすることに役立つんだと聞いて、胸がすく思いがした。
- 仲間が欲しい。認知症の人同士で話し合える場所がもっと近くにほしい。
- 診断後すぐ、先生(医師)がこういう場につないでほしい。
- 家族がいろいろしてくれるのはありがたいが、心配しすぎ。
- できることを奪わないでほしい。失敗しても怒らないで。
- (医療や介護の人は)家族と話している。自分に話してほしい。
- 家族に頼らないで誰かがいてくれて、出かけられるように。
- 自分が自分でいられる場がほしい。
- 自分のやりたいことがいろいろある。今のデイサービスでなく、もっと自由な場があるといい。
- 自宅で暮らせなくなった時)家のように自由に暮らせて、やさしく助けてくれる人いる場所がありがたい。
- 認知症施策を作る時に、自分たちをいれたら変わるのではないかと。本人の声を行政に届ける仕組みがほしい。
- 「私、認知症です」と言える社会に。

同席・同行した人の声

- 話せるか心配だったが、自分から話していた。驚いた。(家族)
- 帰り道の(本人の)足取りが軽く、とても嬉しそうで、私も嬉しくなった。(家族)
- 知らないことを楽しそうに話しておられた。もっと新鮮なときがなければ。(介護職)
- ふざんと活き活き差が全然違った。他の職員にも参加してもらい、一緒に変えていきたい(病棟看護師)。
- こうした場があれば、大事なこと、やるべきことが具体的にわかる！(地域包括支援センター)
- やってみたらうちの地域でもできた。自分の方が元気と勇気ももらった。続けていきたい。(行政事務職)



地域食堂で(北見市)
主催:介護・医療の地域
ネットワーク



駅近の交流スペースで(仙台市)
主催:本人、家族、医師、
ケア関係者等、地域の
多職種の自主組織



小規模多機能事業所で
(上田市)
主催:社会福祉総合施設



認知症カフェで(国立市)
主催:地域の医療機関/
在宅療養相談室



町役場の多目的室で(綾川町)
主催:地域包括支援センター



介護施設の交流スペースで
(大牟田市)
主催:ケア関係者の研究会

3. 抱え込まず、関係者の力を借りて一緒に考え、一緒に取り組む

○一連の作業を、自分/一部の人で、こなそうとしていないか

【事前にやること】

- ・ 企画
- ・ 準備
- ・ 調整
- ・ 手配
- ・ 周知/広報

【事業・取組みの当日】

- ・ 会場設営、受付
- ・ (必要者の移送)
- ・ 進行役
- ・ 報告役
- ・ 記録役・まとめ役
- ・ 結果の広報

その他

どの段階でも

- ・ 一緒に
やってもらえる人が
いないか。
- ・ 手伝ってもらえる人が
いないか。
- ・ 一声かけてみる
人がいないか。
- * 一緒に考え、やってみる
機会・プロセスを通じて、
つながりが深まる。
- * 意外な工夫が生まれる。
- * 自主的に動く人たちが
出てくる。
- * 取組みが持続的になる。

参考 企画段階から一緒に、その後について話し合いながら

京都府向日市 認知症地域支援推進員 石松さんの資料をもとに

例えば・・・高校生対象 認知症サポーター養成講座の調整

これまで

高校生に認知症サポーター講座をしよう

『当日は・・・』

200人養成!(^^)!
おしまい!

改善

高校生に認知症サポーター講座をしよう

打合せ『当日は……』

200人養成!(^^)!



**先生たちと
いっしょに
やっておしまい
しないために
できることが
ないか
打ち合わせが鍵**

打合せ『講座後、何か一緒に……』

高齢者に手紙を書こう!

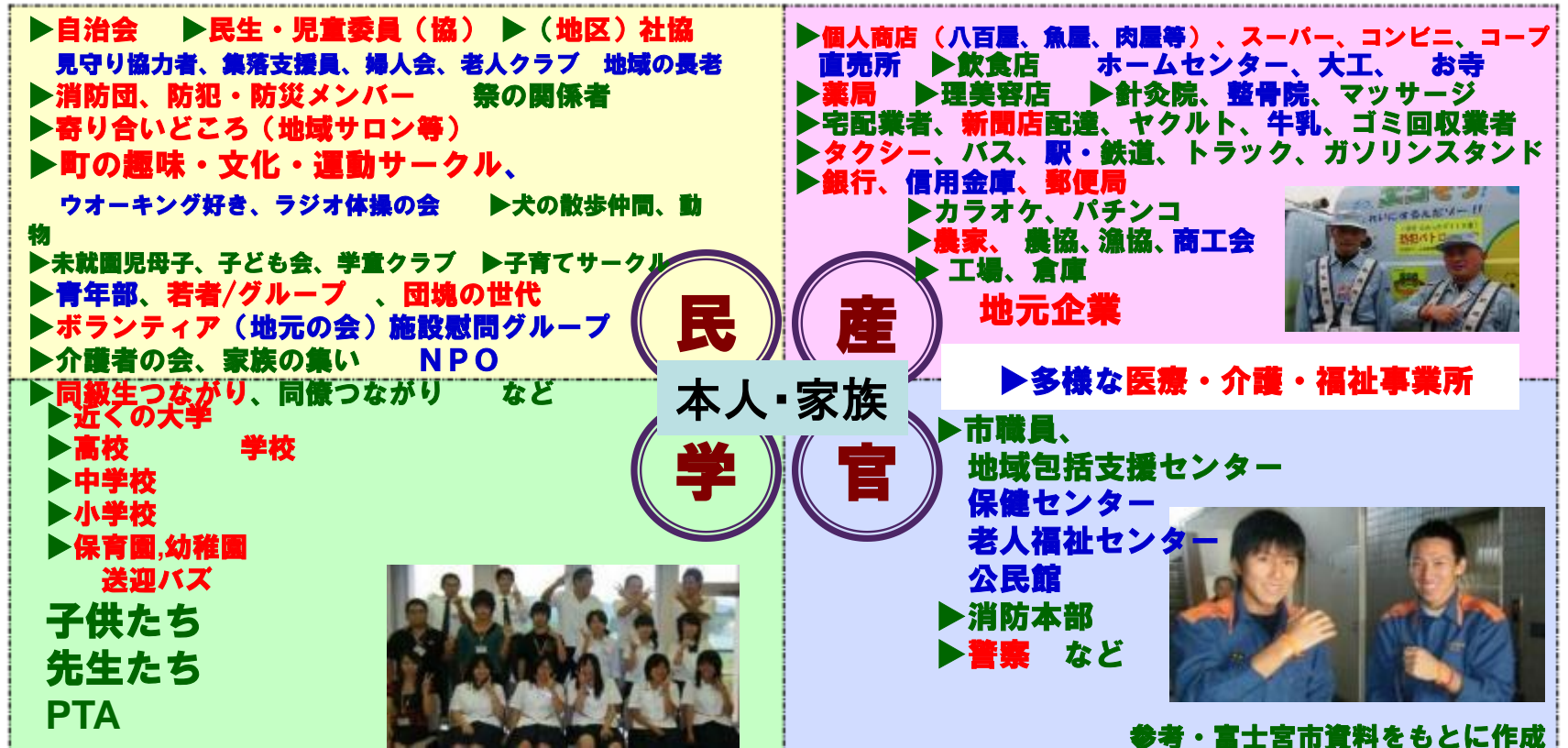


高校生から
民生委員に
⇒高齢者に

4. 脱領域で、多様な分野の人・事業等に視野を広げ、つながる、つなげる

＊本人・家族の日々の生活を支える層を拡充する

町のあらゆる人が、認知症の人と家族の生活相手・見守り・支え手
 →人から人へ活きた関係を紡いでいく 現場に出向きながら



わが町の場、自然、季節、文化、産業等

★領域を越えたつながりが、新たな解決力を生む：専門職・行政職も地域の一員
 ★本人、家族も、地域支援・体制づくりの大事なパートナー！

町にあるものを活かし、小さく始めて、身近なものに

・参考：矢巾わんわんパトロール隊

2013年4月結成

隊員40名 わん隊員44匹



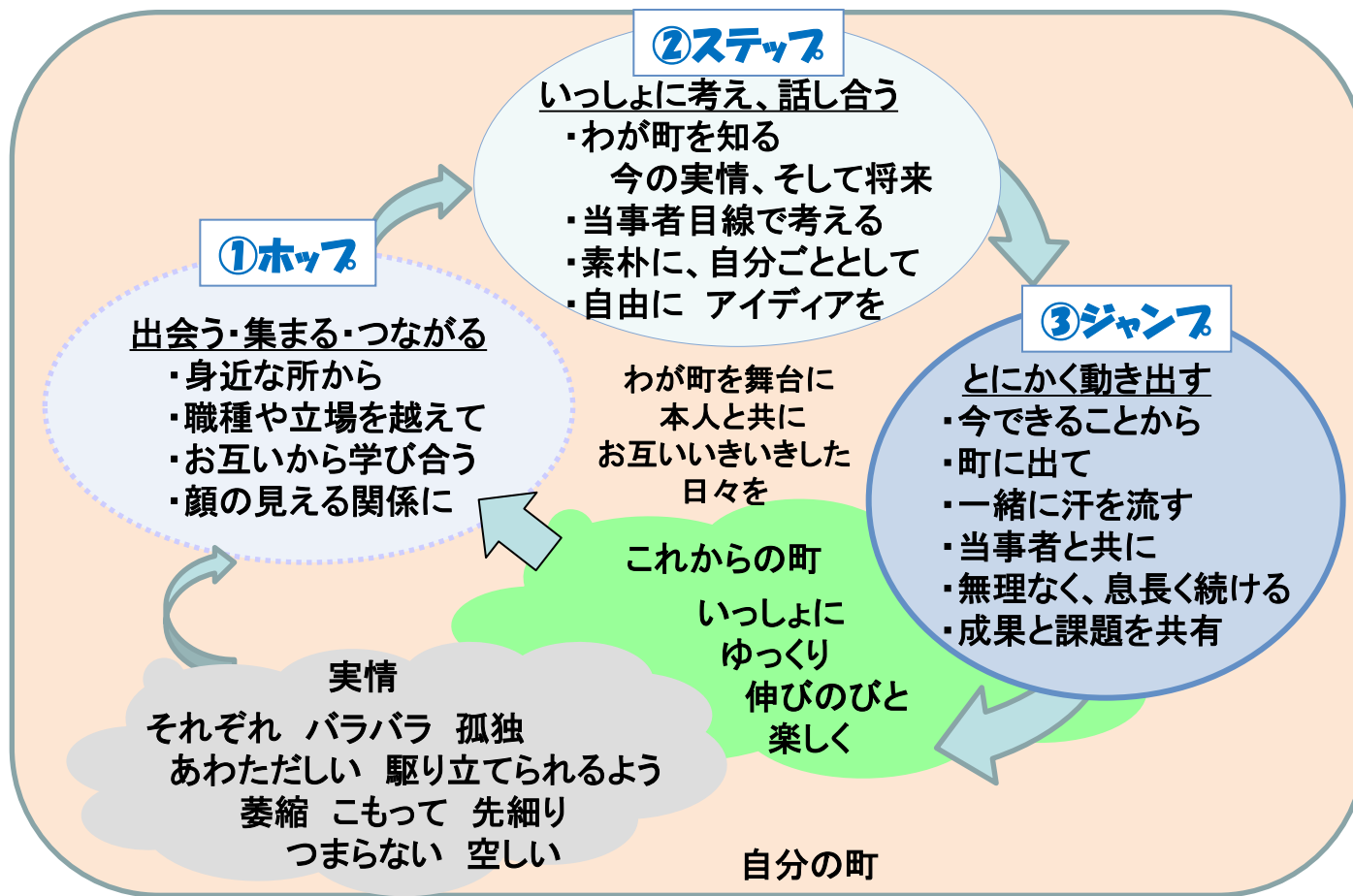
2015年 岩手県矢巾町健康福祉祭にて



- ・日々、町を歩いている
- ・顔なじみの人たち
- ・気軽な話し相手
- ・早めの小さな相談
 - ➔ 地域包括支援センターへつなぎ
- ・SOS時にふだんの底力を発揮
 - ★実際に、迷っていた人を救出！

地域にいる多様な人たちが、地域の中で、出会い、つながり、一緒に楽しく活動する機会をつくろう

アクションミーティングを、一緒に開催してみよう！



研修会、検討会、**情報伝達の機会**、**報告会**の開催方法をリニューアルする
一方通行⇒対話⇒ネットワーク⇒自由なアイデア⇒アクションと連携の連鎖へ

参考 アクションミーティング

「こんな町にしたい」、「こんなとをやってみたい」立場を超えた話しあい

その町ならではのアクションと生きたつながら・連携支援の実践が着実に広がっています。

都会地で・・・



小さな町で・・・



アクションミーティング



医師、薬剤師、栄養士、看護師、
介護職等がチームで出前相談や講座を開催
(静岡市)



休耕地を活かして週1回の農作業

* 畑で医療・介護職、行政、地域の人と
当事者がつながる

* 畑で、早め相談とつながり⇒生活継続に
(新潟県湯沢町)

⑤事業・取組みを進めてきた中での（小さな）成果を、丁寧に見出し、集約し、伝わるように発信する

- *（小さな）成果が、地域でたくさん生まれ始めている
- *課題、改善に向けた気づき、アイデアも生まれている
 - ⇒出向き、声や動きを集める、見える化する
 - ⇒地域の多様な人に発信、共有する

- ★埋もれた動き、起きている変化を、具体的に地域に伝える
- ★見えない努力をしている人に光をあてる
 - ⇒新たなつながり・力がうまれる。

あまりにも知られていない！知ってもらふことから！
伝えたい人の視点にたって、伝わるように、
やさしく楽しい発信を

恵子さんを見守る人たち



地域を舞台に、ひたすらつなげる・つながる

人を、取組みを、ネットワークを、事業をつなげる

* 自分がまずつながる: アンテナをはり、出向いて、話し合っ



参考：推進員が、同級生との会話の中から、希望の種を見つけて展開 (和歌山県 御坊市)

認知症の人が市の産業振興に貢献



御坊市特産品「スターチス」

同級生

- 花をもっと全国に
- スターチスの花言葉：
「変わらぬ心」「途絶えぬ記憶」

推進員

- スターチスを
認知症支援、地域支援のシンボル
合言葉にしよう！
- JAとの協働(地場産業との連携)
- 市民と「わがまち」で
大切なことを一緒に



ていねいに刈り取り
わたしは、わたし。
こんなにイキイキ！



スターチスグッズが
大好評



デイサービスや施設で
袋づめ作業をいっしょに
楽しみながら、思いをこめて。



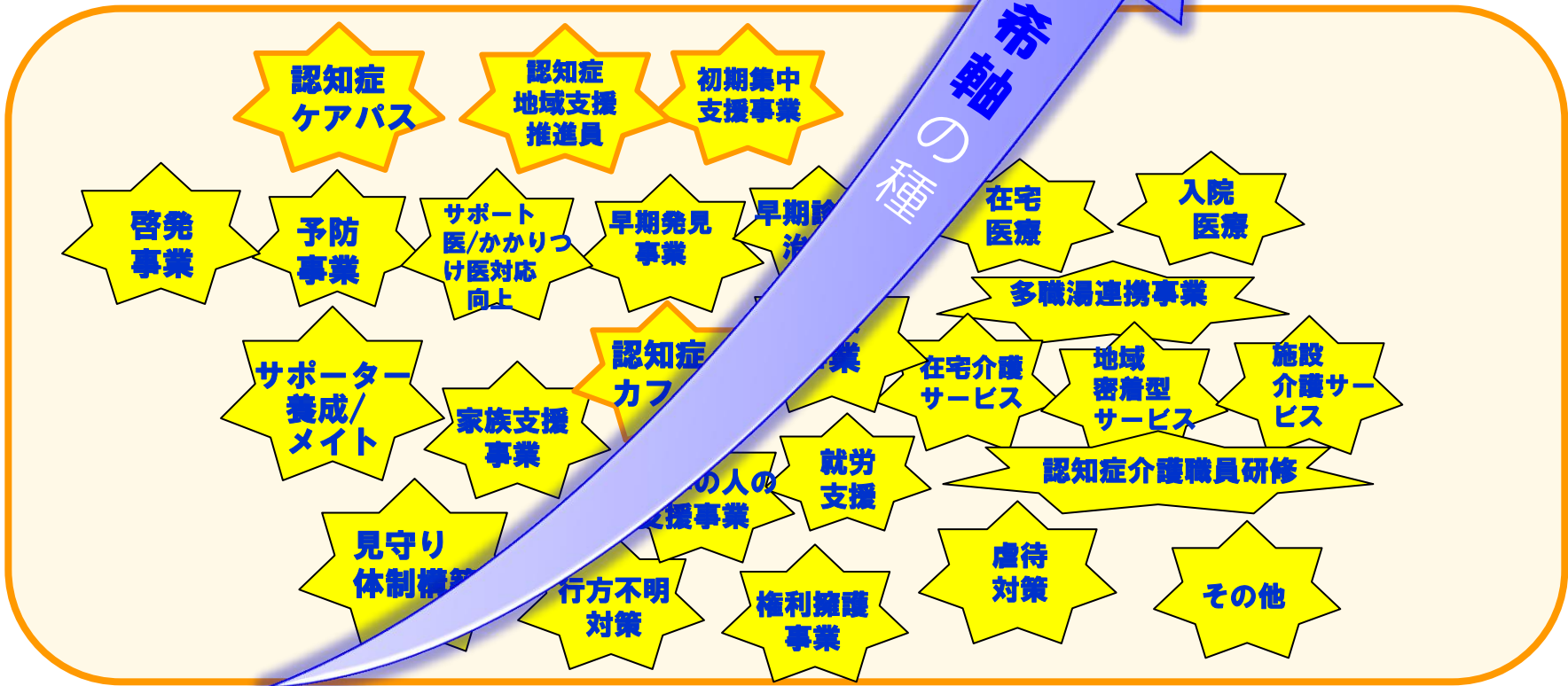
さまざまな人に
大切なことを
バトンタッチ！

分野を超えたつながり、
夢のある企画とアクションが
次々生まれています。

目指す姿！

★希望の種が、ごく身近なところに

本人
地域



希望をもって暮らせる地域に：力を結集するフォーメーション作りを

市区町村：固有の風土・文化・社会資源を最大限に活かしながら

めざす姿



認知症の人が意思を尊重され、地域のよい環境でよりよく暮らし続ける

市区町村内の各(小)地域が、多資源協働でやさしい地域に



市区町村施策を共同で推進する多資源からなるコアチーム
(例：認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーター、指導者、+……)



都道府県

市区町村の施策・取組みのナビゲーション・推進・バックアップ
例)市区町村のコアメンバーを集めた推進会議等の継続開催



国：厚労省、関係省庁

新オレンジプラン、関係省庁が共同

**一人ひとりが持っている可能性、
わが町にある可能性を、どうか大切に。**

**できないことを嘆かずに、
お互いの「いいところ探し」をしながら
やさしいつながりを、
ひとつ、ひとつ、ふやしていきましょう。**

本人の（ささやかな）願いがかなう、やさしいまちに



**おつかれさまでした
!**

おすすめの一冊

- ① **認知症の人の小さくて大きなひとと言、
～私の声が見えますか～」、harunosora社
2015年**
- ② **認知症になっても人生は終わらない、
認知症の私が、認知症のあなたに贈ることば
harunosora社、2017年**